

A/DA Flanger

プラグインマニュアル



Developed by Brainworx in partnership with Rocket Amplification LLC

DBA A/DA Amplification and Distributed by Universal Audio.





A/DA Flangerはこのタイプでもっとも影響力のあるエフェクトペダルです。1978年に生まれた非常にレアなPanasonic® BBD (Bucket Brigade Device) チップは、無減のディレイ・スウィープを行い、ギターサウンドがスピーカーから飛び出るような効果が得られます。とんどのフランジャーは、20:1のタムディレイ比を採用していますがA/DA Flangerは40:1を採用し、真のテープフランジ・サウンドを完全に再現する無限のスウィープを可能にします。オンボードのスイッチは、奇数、または偶数のハーモニクスを強調する機能を備えていますが、内蔵のノイズゲートは、インストゥルメントノイズを低レベルに抑え、より高いダイナミクスを強調します。A/DA Flangerは、ロック、ファンク、レゲエ、などのジャンルやPink FloydからVan Halen、The Policeまでの多くのジャンルのアーティストに愛用されているのも不思議ではありません。

A/DAからライセンスを受け、Brainworxは、プラグインバージョン専用の新機能を追加し、オリジナルのフランジャーが持つ象徴的なサウンドをデジタル領域にもたらしめます。ビンテージBDDのクラシックな1979モデルと、やや異なるキャラクターを持つ2009年モデルを使い分けることができます。フランジャーをステレオトラックに適用するか、モノからアップミックスしてサウンドステージを拡げてリスナーを包み込むサウンドが得られます。A/DA Flangerプラグインには、オンボードのサチュレーション、調整可能なノイズフロア、ホストDAWのテンポとシンク可能なスウィープLFOも含まれています。Apolloインターフェイス用に設計されたフランジャーは、UADのUnisonモードでも使用することが可能で、ギターをオリジナルのハードウェアの入力に接続したときのような音色をほぼレイテンシーなく再現することができます。

“究極のフランジャー”と呼ばれるA/DA Flangerはあらゆるデジタルギターリグや、ミキサーのツールキットとして最適です。



A/DA Flanger

プラグインマニュアル



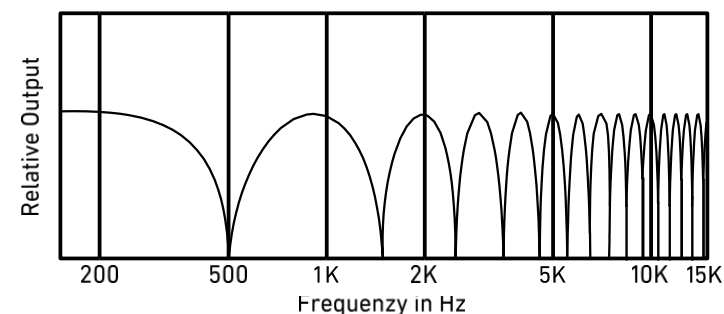
Unisonテクノロジー



A/DA Flangerプラグインは、Apolloシリーズのインターフェイスを念頭に置いて開発され、Unisonプリアンプテクノロジーに対応しています。もちろんA/DA FlangerはどんなUAD-2デバイスでも動作しますが、重要なインピーダンス、ゲインの“スウィートスポット”やリアルなデバイスの回路の挙動をニアゼロレイテンシーで使用するには、Apolloインターフェイスが必要です。これを行うには、ApolloのConsoleアプリケーション内のプリアンプインサートにA/DA Flangerをインサートする必要があります。これにより、サウンドのトーンや動作をオリジナルのハードウェアの厳密なコピーとして動作させることができます。

A/DA Flangerは、幅広いレンジの音色を生成し、インストゥルメント、ボイス、パーカッションなどを劇的にエンハンスすることが可能な第二世代のエレクトロニック・フランジャーです。“フランジング”という用語は、レコーディングスタジオでミキシングしながら同じプログラムマテリアルで独立した2台のテープレコーダーの速度を変更するテクニックを指します。A/DA Flangerは、パフォーマンス中にリアルタイムでスピードの変化を電子的にシミュレートしています。A/DA Flangerの能力は驚異的な量を誇ります。スピーカーを回転させたり、ビブラートさせたり、ジェットサウンドや、レゾナンスのモディファイ、強化されたスタジオフランジと驚愕のフィルター、マトリックスなどの

エフェクトは、あなたが探しているサウンドにすぐにリーチできるようになります。短いタイムディレイで分離された2つの信号を合わせると、補強（ピーク）とキャンセル（ノッチ）が出力レベルで発生します。ピークとノッチの位置は、下のグラフに見られるようにタイムディレイに数学的に関連します。この例では、1mSecのディレイでA/DA Flangerの出力で発生する“コムフィルター”を示しています。500 Hzの信号が1mSecのディレイでフランジャーに入力した場合、それは出力では聴こえません。しかし、1000 Hzの信号は強化され、聴こえるようになります。ディレイ値を変えることによってピークとノッチの位置をオーディオスペクトルの上下に移動させ、フランジ効果を作り出します。



A/DA Flanger

プラグインマニュアル



機能について

1 Threshold (スレッシュホールド)

入力信号レベルが低いときにノイズを除去するノイズゲート。これは、より大きな音への影響を強調します。時計回りに回し切ると、この機能は最小限に抑えられます。

2 Manual (マニュアル)

タイムディレイを設定します。レンジを完全に時計回りに回すと無効になります。最小のディレイタイムは、0.4 ms (完全に時計回り)、最大ディレイタイムは14 ms (完全に反時計回り) です。

3 Range (レンジ)

ディレイがマニュアル、またはスピード、またはその両方の組み合わせによってコントロールするかどうかを設定します。レンジは、ディレイタイムLFOIに適用されるモジュレーション量をコントロールします。最小位置ではモジュレーションは起こらず、ディレイタイムはマニュアルの設定で決まります。レンジを増やすと、モジュレーション量は、“ワイドに(幅広く)”なります。ディレイタイムは、最大値であるとすべてのレンジに渡ってスウィープされ、マニュアルコントロールで最小値から最大値まで動作させるのと同じサウンドを作成します。タイムディレイがマニュアル、またはスピード、またはその両方の組み合わせによってコントロールするかどうかを設定します。レンジは、ディレイタイムLFOに適用するモジュレーション量をコントロールします。最小位置では、モジュレーションは発生せず、ディレイタイムはマニュアルで決定します。レンジを増やすと、モジュレーション量は、“ワイドに(幅広く)”なります。

A/DA Flanger

プラグインマニュアル



ディレイタイムは、最大値であるとすべてのレンジに渡ってスウィープされ、マニュアルコントロールで最小値から最大値まで動作させるのと同じサウンドを作成します。

1 Speed(スピード)

コムフィルターをスペクトルの上下にシフトさせながら、ディレイレンジ全体を移動させる連続可変スウィープのスピード。最小のスウィープスピードは、0.04 Hz (25 sec)、最大は、10 Hz (0.1 sec) です。

シンクオン: 16 小節 ~ 1/32

2 Enhance(エンハンス)

ディレイラインにフィードバックするエフェクト信号の量。これによりアンプリチュードピーキングとより多くのレゾナンスが和えられます。

3 Harmonics(ハーモニクス)

偶数、奇数のハーモニクスの関係で通過帯域をピーク可能にします。このスイッチは、処理された信号の極性(位相)を反転させます。処理後の信号が反転し、ドライ信号を組み合わせられると、合成したコムフィルタリングは、極性を変更することで異なる音色を提供します。反転させた場合、音の芯が無くなる場合があります。

4 Level(レベル)

入力レベルを-14 dB減衰させます。

A/DA Flanger

プラグインマニュアル



1 Stereo (ステレオ)

このソフトウェアのみに追加されたスイッチは、ステレオで使用している場合、出力時に処理後の信号を変更します。ステレオをオンにすると、2つのチャンネルのスウィープLFOの間に180°（逆相）が適用されます。この位相オフセットはパンニング効果を生じます。レンジ・パラメーターが0%のときは、ステレオモードでは効果がありません。

2 Sync (シンク)

スウィープLFOのスピードをホスト(DAW)のテンポにシンクさせます。

3 Rate Display (レートディスプレイ)

スウィープLFOのレートが表示されます。シンクを使用していない場合、Hz単位でLFOのスピードを表示します。シンクを使用している場合、ビートのタイムディビジョンで表示されます。

LFOスピードがレンジ外の場合は、“----”と表示されます。

4 Output (アウトプット)

プラグインの出力レベルを調整します。使用可能な範囲は-24 dB to +12dBです。

5 Model (モデル)

1979年製のビンテージユニット、または2009年製のリイシューモデルのサウンドを切り替えることができます。

A/DA Flanger

プラグインマニュアル



A/DA Flangerを使用する

A/DA Flanger について理解するために以下のコントロールノブの設定を試してみましょう。位置が指定されている設定にあまり影響を与えないためにポインターを使用せずに図にノブの設定を表示してます。スレッショルドコントロールの適切な位置を見つけるには、A/DA Flangerを使用しながらスレッショルドノブを時計回りに回してください。フランジャーにインストゥルメントを接続し、ノートやコードを演奏してください。信号が減衰していくとフランジャーの残留ノイズが聴こえます。ノイズと一緒にフランジ効果がなくなるまで、スレッショルドノブを反時計回りに回してください。これは次のすべての図にこのコントロールを設定したままにしておくべきです。

1 Full Range (フルレンジ)

この設定は、A/DA Flanger最大スウィープレンジを提供します。

2 Even/Odd Harmonic Comparison (偶数/奇数ハーモニック比較)

Even/Oddスイッチを動かし、マニュアル設定を使用して比較することができます。

3 Vibrato (ビブラート)

スピードコントロールは、ビブラートのスピードを設定します。レンジコントロールは、ビブラートの深さを設定します。

A/DA Flanger

プラグインマニュアル



1 Leslie (レスリー)

この設定は、コーラス、または遅いレスリー効果が得られます。トレモロや速いレスリー効果を必要とする場合、スピードノブをさらに時計回りに回してください。

2 Pitch Change (ピッチチェンジ)

スピードコントロールをさらに時計回りに回すとピッチの変化量が大きくなります。

3 Chorus Effect (コーラスエフェクト)

この設定では、インストゥルメントの音色に厚みを与える“コーラス効果”が得られます。





A/DA Flanger

プラグインマニュアル



Top Toolbar

1 Undo / Redo (アンドウ/リドゥ)

フランジャープラグインで行ったコントロールの変更を、最大32ステップいつでもアンドウ/リドゥすることができます。セッティングを元に戻したくなった場合はいつでもアンドウを使用することが可能です。これにより実験や調整を行いやすくなります。

2 Settings (A/B/C/D): セッティング (A/B/C/D)

フランジャープラグインは、4個の内部セッティング (A/B/C/D) があり各プリセットに保存することができます。1つのプリセットにつき、最高で4個のアンプとエフェクトセッティングのバリエーションを保存することができます。同じアンプセッティングで、ディレイの濃さ、異なるディレイタイムの設定をしたり、プリセット内でリード/クランチ/クリーンを切替えたりすることができます。これらの設定は、ほとんどすべてのDAWでオートメーション化することができます。この方法によって、ドライナリズムサウンドからディレイがかかったリードサウンドに瞬時に切り替えることができます。

3 Copy / Paste (コピー/ペースト)

同じサウンドのバリエーションを作る場合、何度も一から音作りをする必要はありません。セッティングAのバリエーションをディレイ無しにしてBに作ると仮定します。

- セッティング A を選択し、“COPY”をクリックしてください。
- “SETTING”セクションで B に切替えてください。
- “PASTE”をクリックすると A のセッティングを再現します。
- プラグインをバイパスして終了です。

たったこれだけの操作で AとB はディレイの有無以外はまったく同じサウンドになります。

4 Saturation (サチュレーション)

Brainworx XLサチュレーションをエフェクト信号に加えます。ドライシグナルには影響しません。

5 Mix (ミックス)

ダイレクト信号と処理後の信号のミックスとバランスをコントロールします。デフォルト値は50%です。これはオリジナルハードウェアの初期状態を反映しています。

0% = ダイレクトのみ。100% = 処理された信号のみ

6 Noise (ノイズ)

オリジナルハードウェア・ユニットのノイズキャラクターを処理後の信号にのみ加えます。





BRAINWORX

Plug in, Rock out! - www.brainworx-music.de